

定 款

2015年7月29日発効

定款

第1章 総則

(目的)

第1条 この医療生活協同組合（以下「組合」という）は、協同互助の精神に基づき、医療・福祉ならびに保健事業を通じて、組合員の生活の文化的経済的改善向上をはかることを目的とする。

(名称)

第2条 この組合は、医療生協さいたま生活協同組合という。

(事業)

第3条 この組合は第1条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) 組合員に対する医療に関する事業
- (2) 高齢者、障害者等の福祉に関する事業であって組合員が利用する事業
- (3) 組合員の生活に必要な物資を購入し、これに加工し、若しくは加工しないで組合員に供給する事業
- (4) 組合員の保健衛生及び健康管理の改善向上をはかる事業
- (5) 組合員及び組合従業員の組合事業に関する知識の向上をはかる事業
- (6) 組合員の生活の改善及び文化の向上をはかる事業
- (7) 前各号の事業に附帯する事業

(区域)

第4条 この組合の区域は、埼玉県全域とする。

(事務所の所在地)

第5条 この組合は、事務所を埼玉県川口市におく。

第2章 組合員

(組合員の資格)

第6条 この組合の区域内に住所を有する者は、この組合の組合員となることができる。

2 この組合の区域内に勤務地を有する者で、この組合の事業（施設）を利用することを適当とする者は、この組合の承認をうけて、この組合の組合員となることができる。

(加入の申込み)

第7条 前条第1項に規定する者は、組合員となろうとするときは、この組合の定める加入申込書に引き受けようとする出資口数に相当する出資金額を添え、これをこの組合に提出しなければならない。

2 この組合は、前項の申込みを拒んではならない。ただし、前項の申込みを拒むことにつき、理事会において正当な理由があると議決した場合は、この限りではない。

3 この組合は前条第1項に規定する者の加入について、現在の組合員が加入の際に付されたよりも困難な条件を付さないものとする。

- 4 第1項の申込みをしたものは、第2項ただし書の規定により、その申込を拒まれた場合を除き、この組合が第1項の申し込みを受理したときに、組合員となる。
- 5 この組合は組合員となった者について組合員証を作成し、その組合員に交付するものとする。

(加入承認の申請)

- 第8条 第6条第2項に規定する者が、組合員となろうとするときは、引受けようとする出資口数を明らかにして、この組合の定める加入承認申請書をこの組合に提出しなければならない。
- 2 この組合が、理事会において前項の申請を承認したときは、その旨を同項の申請をした者に通知するものとする。
 - 3 前項の通知を受けた者は、速やかに出資金の払込みをしなければならない。
 - 4 第1項の申請をした者は、前項の規定により出資金の払込みをしたときに、組合員となる。
 - 5 この組合は、組合員となった者について組合員証を作成し、その組合員に交付するものとする。

(届出の義務)

- 第9条 組合員は組合員たる資格を喪失したとき、又はその氏名若しくは住所を変更したときは、速やかにその旨をこの組合に届出なければならない。

(自由脱退)

- 第10条 組合員は、事業年度の末日の90日前までにこの組合に予告し、当該事業年度の終わりにおいて脱退することができる。
- 2 この組合は組合員が第9条に定める住所の変更届けを3年間行わなかったときは、脱退の予告があったものとみなし、理事会において脱退処理を行い、当該事業年度の終わりにおいて当該組合員は脱退するものとする。
 - 3 前項の規定により脱退の予告があったものとみなそうとするときは、この組合は事前に当該組合員に対する年1回以上の所在確認を定期的に行うと共に、公告等による住所の変更届の催告をしなければならない。
 - 4 第2項の規定により理事会が脱退処理を行ったときは、その結果について総代会に報告するものとする。

(法定脱退)

- 第11条 組合員は、次の事由によって脱退する。

- (1) 組合員としての資格の喪失
- (2) 死亡
- (3) 除名

(除名)

- 第12条 この組合は、組合員が次の各号のいずれかに該当するときは、総代会の議決によって、除名することができる。

- (1) 利用料の支払いを怠たり、催告をうけてもその義務を履行しないとき
- (2) この組合の事業をさまたげ、又は信用を失わせる行為をしたとき

- 2 前項の場合において、この組合は、総代会の会日の5日前までに、除名しようとする組合員にその旨を通知し、かつ、総代会において弁明する機会を与えなければならない。
- 3 この組合は、除名の議決があったときは除名された組合員に除名の理由を明らかにして、その旨を通知するものとする。

(脱退組合員の払戻し請求権)

第13条 脱退した組合員は、次の各号に定めるところにより、その払込済出資額の払戻しをこの組合に請求することができる。

- (1) 第10条又は第11条第1号の事由による脱退の場合は払込済出資額に相当する額
 - (2) 第11条第3号の事由による脱退の場合は、その払込済出資額の2分の1に相当する額
- 2 第11条第2号の事由により脱退した組合員の相続人は、当該脱退した組合員の払込済出資額の払い戻しをこの組合に請求することができる。
- 3 この組合は、脱退した組合員がこの組合に対する債務を完済するまでは、前項の規定による払戻しを停止することができる。
 - 4 この組合は、事業年度の終わりに当たり、この組合の財産をもってその債務を完済するに足りないときは、第1項の払戻しを行わない。

(出資)

第14条 組合員は、出資1口以上を有しなければならない。

- 2 1組合員の有することのできる出資口数の限度は、組合員の総出資口数の4分の1とする。
- 3 組合員は、出資金額の払込みについて、相殺をもってこの組合に対抗することができない。
- 4 組合員の責任は、その出資金額を限度とする。

(出資1口の金額及びその払込み方法)

第15条 出資1口の金額は、1,000円とし全額一時払込みとする。

(出資口数の増加)

第16条 組合員は、この組合の定める方法により、その出資口数を増加することができる。

(出資口数の減少)

- 第17条 組合員は、やむを得ない理由があるときは、事業年度の末日の90日前までに減少しようとする出資口数をこの組合に予告し、当該事業年度の終わりにおいて出資口数を減少することができる。
- 2 組合員は、その出資口数が第14条第2項に規定する限度を超えたときは、その限度以下に達するまで、その出資口数を減少しなければならない。
 - 3 出資口数を減少した組合員は、減少した出資口数に応ずる払込済出資額の払戻しを、この組合に請求することができる。
 - 4 第13条第4項の規定は、出資口数を減少する場合について準用する。

第3章 役職員

(役員の数)

第 18 条 この組合に次の役員をおく。

- (1) 理事 32 人以上 37 人以内
- (2) 監事 5 人以上 8 人以内

(役員を選任)

第 19 条 役員は、役員選任規約の定めるところにより、総代会において選任する。

- 2 理事は組合員でなければならない。ただし、特別の理由があるときは、理事の定数の 3 分の 1 以内の者を、組合員以外の者のうちから選任することができる。
- 3 理事は、監事の選任に関する議案を総代会に提出するには、監事の過半数の同意を得なければならない。

(役員を補充)

第 20 条 理事または監事のうち、その定数の 5 分の 1 を超える者が欠けたときは、役員選任規約の定めるところにより、3 箇月以内に補充しなければならない。

(役員任期)

- 第 21 条 理事及び監事の任期は 2 年とし、前任者の任期満了のときから起算する。ただし、再選を妨げない。
- 2 補欠役員の任期は、前項の規定にかかわらず、補充した総代会の日において現に存在する役員の任期が終了するときまでとする。
 - 3 役員任期は、その満了のときがその属する事業年度の通常総代会の終了のときと異なるときは、第 1 項の規定にかかわらず、その総代会の終了のときまでとする。
 - 4 役員が任期の満了又は辞任によって退任した場合において役員数がその定数を欠くに至ったときは、その役員は、後任者が就任するまでの間は、なお役員としての権利義務を有するものとする。

(役員兼職禁止)

第 22 条 監事は、組合の理事又は使用人と兼ねてはならない。

(役員責任)

- 第 23 条 役員は、法令、法令に基づいてする行政庁の処分、定款及び規約並びに総代会の決議を遵守し、この組合のため忠実にその職務を遂行しなければならない。
- 2 役員は、その任務を怠ったときは、組合に対し、これによって生じた損害を賠償する責任を負う。
 - 3 前項の任務を怠ってされた行為が理事会の決議に基づき行われたときは、その決議に賛成した理事は、その行為をしたものとみなす。
 - 4 第 2 項の責任は、総組合員の同意がなければ、免除することができない。
 - 5 前項の規定にかかわらず、第 2 項の責任は、当該役員が職務を行うにつき善意でかつ重大な過失がないときは、法令で定める額を限度として、総代会の決議によって免除することができる。
 - 6 前項の場合には、理事は、同項の総代会において次に掲げる事項を開示しなければならない。
 - (1) 責任の原因となった事実及び賠償の責任を負う額
 - (2) 前項の規定により免除することができる額の限度及びその算定の根拠

(3) 責任を免除すべき理由及び免除額

- 7 理事は、第 2 項の責任の免除（理事の責任の免除に限る）に関する議案を総代会に提出するには、各監事の同意を得なければならない。
- 8 第 5 項の決議があった場合において、当該決議後に同項の役員に対し退職慰労金等を与えるときは、総代会の承認を受けなければならない。
- 9 役員がその職務を行うについて悪意又は重大な過失があったときは、当該役員は、これによって第三者に生じた損害を賠償する責任を負う。
- 10 次の各号に掲げる者が、当該各号に定める行為をしたときも、前項と同様の取り扱いとする。ただし、その者が当該行為をすることについて注意を怠らなかったことを証明したときは、この限りでない。

(1) 理事 次に掲げる行為

- イ 法第 31 条の 7 第 1 項及び第 2 項の規定により作成すべきものに記載し、又は記録すべき重要な事項についての虚偽の記載又は記録
- ロ 虚偽の登記
- ハ 虚偽の公告

(2) 監事 監査報告に記載し、又は記録すべき重要な事項についての虚偽の記載又は記録

- 11 役員が組合又は第三者に生じた損害を賠償する責任を負う場合において、他の役員も当該損害を賠償する責任を負うときは、これらの者は連帯債務者とする。

（理事の自己契約等）

第 24 条 理事は、次に掲げる場合には、理事会において、当該取引につき重要な事実を開示し、その承認を受けなければならない。

- (1) 理事が自己又は第三者のためにこの組合と取引をしようとするとき
- (2) この組合が理事の債務を保証することその他理事以外の者との間において組合と当該理事との利益が相反する取引をしようとするとき
- (3) 理事が自己又は第三者のために組合の事業の部類に属する取引をしようとするとき
- 2 第 1 項各号の取引を行った理事は、当該取引後、遅滞なく当該取引についての重要な事実を理事会に報告しなければならない。

（役員解任）

第 25 条 総代は、総代の 5 分の 1 以上の連署をもって、役員解任を請求することができるものとし、その請求につき総代会において出席者の過半数の同意があったときは、その請求に係る役員は、その職を失う。

- 2 前項の規定による請求にあたっては、解任の理由を記載した書面をこの組合に提出しなければならない。
- 3 理事長は、前項の規定による書面の提出があったときは、その請求を総代会の議に付し、かつ、総代会の会日の 10 日前までにその役員にその書面を送付し、かつ総代会において弁明する機会を与えなければならない。
- 4 第 1 項の請求があった場合は、理事会は、その請求があった日から 20 日以内に臨時総代会を招集すべきことを決しなければならない。なお、理事の職務を行う者がいないとき又理事が正当な理由がない

のに総代会招集の手続きをしないときは、監事は、総代会を招集しなければならない。

(役員報酬)

第 26 条 理事及び監事に対する報酬は、総代会の議決をもって定める。この場合において、総代会に提出する議案は、理事に対する報酬と監事に対する報酬を区分して表示しなければならない。

- 2 監事は、総代会において、監事の報酬について意見を述べることができる。
- 3 第 1 項の報酬の算定方法については、規則をもって定める。

(代表理事)

第 27 条 理事会は、理事の中からこの組合を代表する理事（以下、「代表理事」という。）を選定しなければならない。

- 2 代表理事は、この組合の業務に関する一切の裁判上又は裁判外の行為をする権限を有する。
- 3 代表理事が任期の満了又は辞任によって退任した場合において代表理事を欠くに至ったときは、当該代表理事は後任の代表理事が選定されるまでの間は、なお代表理事としての権利義務を有するものとする。

(理事長、専務理事および常務理事)

第 28 条 理事は、理事長 1 人、専務理事 1 人及び常務理事 5 名以上 7 名以内を理事会において互選する。

- 2 理事長は、理事会の決定に従ってこの組合の業務を統括する。
- 3 専務理事は、理事長を補佐してこの組合の業務を執行し、理事長に事故がある時は、その職務を代行する。
- 4 常務理事及び理事は、理事長及び専務理事を補佐してこの組合の業務の執行を分担し、理事長、専務理事に事故があるときは、あらかじめ理事会において定めた順序に従ってその職務を代行する。

(理事会)

第 29 条 理事会は、理事をもって組織する。

- 2 理事会は、組合の業務執行を決し、理事の職務の執行を監督する。
- 3 理事会は、理事長が招集する。
- 4 理事長以外の理事は、理事長に対し、理事会の目的である事項を示して、理事会の招集を請求することができる。
- 5 前項の請求があった日から 5 日以内に、その請求のあった日から 2 週間以内の日を理事会の日とする理事会の招集の通知が発せられない場合には、その請求をした理事は、理事会を招集することができる。
- 6 理事は 3 月に 1 回以上業務の執行の状況を理事会に報告しなければならない。
- 7 その他理事会の運営に関し必要な事項は、規則で定める。

(理事会招集手続)

第 30 条 理事会の招集は、その理事会の日の 1 週間前までに、各理事及び監事に対してその通知を発してしなければならない。ただし、緊急の必要がある場合には、この期間を短縮することができる。

2 理事会は、理事及び監事の全員の同意があるときは、招集の手続を経ないで開くことができる。

(理事会の議決事項)

第 31 条 この定款に特別の定めがあるもののほか、次の事項は、理事会の議決を経なければならない。

- (1) この組合の財産及び業務の執行に関する重要な事項
- (2) 総会及び総代会の招集並びに総会及び総代会に付議すべき事項
- (3) この組合の財産及び業務の執行のための手続その他この組合の財産及び業務の執行について必要な事項を定める規則の設定、変更及び廃止
- (4) 取引金融機関の決定
- (5) 前各号のほか、理事会において必要と認めた事項

(理事会の議決方法)

第 32 条 理事会の決議は、議決に加わることができる理事の過半数が出席し、その過半数をもって行う。

- 2 前項の決議について特別の利害関係を有する理事は、議決に加わることができない。
- 3 理事が理事会の決議の目的である事項について提案した場合において、当該提案につき理事（当該事項について議決に加わることができるものに限る。）の全員が書面又は電磁的記録により同意の意思表示をしたとき（監事が当該提案について異議を述べたときは除く。）は、当該提案を可決する旨の理事会の決議があったものとみなす。
- 4 理事又は監事が理事及び監事の全員に対して理事会に報告すべき事項を通知したときは、当該事項を理事会へ報告することを要しない。

(理事会の議事録)

第 33 条 理事会の議事については、法令の定める事項を記載した議事録を作成し、出席した理事及び監事は、これに署名し、又は記名押印しなければならない。

- 2 前項の議事録を電磁的記録をもって作成した場合には、出席した理事及び監事は、これに電子署名をしなければならない。

(定款等の備置)

第 34 条 この組合は、法令に基づき、以下に掲げる書類を事務所に備え置かなければならない。

- (1) 定款
 - (2) 規約
 - (3) 理事会の議事録
 - (4) 総代会の議事録
 - (5) 貸借対照表、損益計算書、剰余金処分案又は損失処理案（以下、「決算関係書類」という。）及び事業報告書並びにこれらの附属明細書（監査報告を含む）
- 2 この組合は、法令に定める事項を記載した組合員名簿を作成し、事務所に備え置かなければならない。
 - 3 この組合は、組合員又は組合の債権者（理事会の議事録については裁判所の許可を得た組合の債権者）から法令に基づき、業務取扱時間内において当該書面の閲覧又は謄写の請求等があったときは、

正当な理由がないのにこれを拒んではならない。

(監事の職務及び権限並びに監事会)

第 35 条 監事は、理事の職務の執行を監査する。この場合において、法令の定めるところにより、監査報告を作成しなければならない。

2 監事は、いつでも、理事及び使用人に対して事業に関する報告を求め、又はこの組合の業務及び財産の状況の調査をすることができる。

3 監事は、理事会に出席し、必要があると認めるときは、意見を述べなければならない。

4 監事は、理事が不正の行為をし、若しくは当該行為をするおそれがあると認めるとき、又は法令若しくは定款に違反する事実若しくは著しく不当な事実があると認めるときは、遅滞なく、その旨を理事会に報告しなければならない。

5 監事は、前項の場合において、必要があると認めるときは、理事に対し、理事会の招集を請求することができる。

6 第 29 条第 5 項の規定は、前項の請求をした監事についてこれを準用する。

7 監事は、総代会において、監事の選任若しくは解任又は辞任について意見を述べることができる。

8 監事を辞任した者は、辞任後最初に招集される総代会に出席して、辞任した旨及びその理由を述べることができる。

9 理事長は、前項の者に対し、同項の総代会を招集する旨並びに総代会の日時及び場所を通知しなければならない。

10 監査についての規則の設定、変更及び廃止は監事が行い、総代会の承認を受けるものとする。

11 この組合は、監事で構成する監事会を置く。

12 監事会は、次に掲げる事項を行うものとする。ただし、各監事の職務及び権限の行使を妨げることはできない。

(1) 監事の職務遂行に関する重要な事項についての協議

(2) 監事の職務権限の行使に関しない事項であって、監事の合議によって決すべきものの決定

13 監事会の運営に必要なその他の事項は、監事会が別に定める規則による。

(理事の報告義務)

第 36 条 理事は、組合に著しい損害を及ぼすおそれがある事実を発見したときは、直ちに監事に報告しなければならない。

(監事による理事の行為の差止め)

第 37 条 監事は、理事がこの組合の目的の範囲外の行為その他法令若しくは定款に違反する行為をし、又はこれらの行為をするおそれがある場合において、当該行為によってこの組合に著しい損害が生ずるおそれがあるときは、当該理事に対し、当該行為をやめることを請求することができる。

2 前項の場合において、裁判所が仮処分をもって同項の理事に対し、その行為をやめることを命ずるときは、担保を立てさせないものとする。

(監事の代表権)

第 38 条 第 27 条第 2 項の規定にかかわらず、次の場合には、監事がこの組合を代表する。

- (1) この組合が、理事又は理事であった者（以下、この条において理事等という。）に対し、又理事等が組合に対して訴えを提起する場合
- (2) この組合が、6箇月前から引き続き加入する組合員から、理事等の責任を追及する訴えの提起の請求を受ける場合
- (3) この組合が、6箇月前から引き続き加入する組合員から、理事等の責任を追及する訴えに係る訴訟告知を受ける場合
- (4) この組合が、裁判所から、6箇月前から引き続き加入する組合員による理事等の責任を追及する訴えについて、和解の内容の通知及び異議の催告を受ける場合

（組合員による理事の不正行為等の差止め）

第 39 条 6 箇月前から引き続き加入する組合員は、理事が組合の目的の範囲外の行為その他法令若しくは定款に違反する行為をし、又はこれらの行為をするおそれがある場合において、当該行為によって組合に回復することができない損害が生ずるおそれがあるときは、当該理事に対し、当該行為をやめることを請求することができる。

（組合員の調査請求）

第 40 条 組合員は総組合員の 100 分の 3 以上の同意を得て、監事に対し、組合の業務及び財産の状況の調査を請求することができる。

2 監事は、前項の請求があつたときは、必要な調査を行わなければならない。

（顧問）

第 41 条 この組合に顧問をおくことができる。

2 顧問は、学識経験のある者のうちから、理事会において選任する。

3 顧問は、この組合の業務の執行に関し、理事長の諮問に応ずるものとする。

（職員）

第 42 条 この組合の職員は理事長が任免する。

2 職員の服務、給与その他職員に関し必要な事項は、規則で定める。

第 4 章 総代会及び総会

（総代会の設置）

第 43 条 この組合に、総会に代るべき総代会を設ける。

（総代の定数）

第 44 条 総代の定数は、500 人以上 600 人以内において総代選挙規約で定める。

（総代の選挙）

第 45 条 総代は、総代選挙規約の定めるところにより、組合員のうちから選挙する。

（総代の補充）

第 46 条 総代が欠けた場合におけるその補充については、総代選挙規約の定めるところによる。

(総代の職務執行)

第 47 条 総代は、組合員の代表として、組合員の意思を踏まえ、誠実にその職務を行わなければならない。

(総代の任期)

第 48 条 総代の任期は 1 年とする。ただし再選をさまたげない。

2 補欠総代の任期は、前項の規定にかかわらず、前任者の残任期間とする。

3 総代は、任期満了後であっても後任者の就任するまでの間は、その職務を行うものとする。

(総代名簿)

第 49 条 理事は、総代の氏名及びその選挙区を記載した総代名簿を作成し、組合員に周知しなければならない。

(通常総代会の招集)

第 50 条 通常総代会は、毎事業年度終了の日から 3 箇月以内に招集しなければならない。

(臨時総代会の招集)

第 51 条 臨時総代会は、必要があるときはいつでも理事会の議決を経て、招集できる。ただし、総代がその 5 分の 1 以上の同意を得て、会議の目的とする事項及び招集の理由を記載した書面を提出して総代会の招集を請求したときは、理事会は、その請求のあった日から 20 日以内に臨時総代会を招集すべきことを決しなければならない。

(総代会の招集者)

第 52 条 総代会は、理事会の議決を経て、理事長が招集する。

2 理事長及びその職務を代行する理事がいないとき、又は前条の請求があった場合において、理事が正当な理由がないのに総代会招集の手続をしないときは、監事は、総代会を招集しなければならない。

(総代会の招集手続)

第 53 条 総代会の招集者が総代会を招集する場合には、総代会の日時及び場所その他の法令で定める事項を定めなければならない。

2 前項の事項の決定は、次項の定める場合を除き、理事会の決議によらなければならない。

3 前条第 2 項の規定により監事が総代会を招集する場合には、第 1 項の事項の決定は、監事の全員の合議により決定しなければならない。

4 総代会を招集するには、総代会の招集者は、その総代会の会日の 10 日前までに、総代に対して第 1 項の事項を記載した書面をもってその通知を発しなければならない。

5 通常総代会の招集の通知に際しては法令で定めるところにより、総代に対し、理事会の承認を受けた決算関係書類及び事業報告書（監査報告を含む。）を提供しなければならない。

(総代会提出議案・書類の調査)

第 54 条 監事は、理事が総代会に提出しようとする議案、書類その他法令で定めるものを調査しなければならない。この場合において、法令若しくは定款に違反し、又は著しく不当な事項があると認めるときは、その調査の結果を総代会に報告しなければならない。

(総代会の延期又は続行の決議)

第 55 条 総代会の会日は、総代会の議決により、延期し、又は続行することができる。この場合においては、第 53 条各項の規定は適用しない。

(総代会の議決事項)

第 56 条 この定款に特別の定めがあるもののほか、次の事項は総代会の議決を経なければならない。

- (1) 定款の変更
 - (2) 規約の設定、変更及び廃止
 - (3) 解散及び合併
 - (4) 毎事業年度の予算及び事業計画の設定及び変更
 - (5) 出資一口の金額の減少
 - (6) 事業報告書及び決算関係書類
 - (7) 連合会及び他の団体への加入又は脱退
- 2 この組合は、第 3 条各号に掲げる事業を行うため、必要と認められる他の団体への加入又は脱退であって、多額の出資若しくは加入金又は会費を要しないものについては、前項の規定にかかわらず、総代会の議決によりその範囲を定め、理事会の議決事項とすることができる。
- 3 総代会においては、第 53 条第 4 項の規定により、あらかじめ通知した事項についてのみ議決をするものとする。ただし、この定款により総代会の議決事項とされているものを除く事項であって軽微かつ緊急を要するものについては、この限りでない。
- 4 規約の変更のうち、以下の事項については、第 1 項の規定にかかわらず、総代会の議決を経ることを要しないものとすることができる。この場合においては、総代会の議決を経ることを要しない事項の変更の内容の組合員に対する通知、公告その他の周知方法は第 82 条及び第 83 条による。
- (1) 関係法令の改正（条項の移動等当該法令に規定する内容の実質的な変更を伴わないものに限る）に伴う規定の整理
 - (2) 定款の変更（条項の移動等定款に規定する内容の実質的な変更を伴わないものに限る）に伴う規定の整理

(総代会の成立要件)

第 57 条 総代会は、総代の半数が出席しなければ、議事を開き、議決をすることができない。

2 前項に規定する数の総代の出席がないときは、理事会は、その総代会の会日から 20 日以内にさらに総代会を招集することを決しなければならない。この場合には、前項の規定は適用しない。

(役員の説明義務)

第 58 条 役員は、総代会において、総代から特定の事項について説明を求められた場合には、当該事項について必要な説明をしなければならない。ただし、次に掲げる場合は、この限りでない。

- (1) 総代が説明を求めた事項が総代会の目的である事項に関しないものである場合
- (2) その説明をすることにより組合員の共同の利益を著しく害する場合
- (3) 総代が説明を求めた事項について説明をするために調査をすることが必要である場合。ただし、当該総代が総代会の日より相当の期間前に当該事項を組合に対して通知した場合又は当該事項について説明をするために必要な調査が著しく容易である場合はこの限りでない
- (4) 総代が説明を求めた事項について説明をすることにより組合その他の者（当該総代を除く）の権利を侵害することとなる場合
- (5) 総代が当該総代会において実質的に同一の事項について繰り返して説明を求める場合
- (6) 前各号に掲げる場合のほか、総代が説明を求めた事項について説明をしないことにつき正当な理由がある場合

（議決権）

第 59 条 総代は、その出資口数の多少にかかわらず、各 1 個の議決権を有する。

（総代会の議決方法）

第 60 条 総代会の議事は、出席した総代の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

- 2 総代会の議長は、総代会において、出席した総代のうちから、その都度選任する。
- 3 議長は、総代として総代会の議決に加わる権利を有しない。
- 4 総代会において議決をする場合には、議長は、その議決に関して出席した総代の数に算入しない。

（総代会の特別議決方法）

第 61 条 次の事項は、総代の半数以上が出席し、その 3 分の 2 以上の多数で決しなければならない。

- (1) 定款の変更
- (2) 解散及び合併
- (3) 組合員の除名
- (4) 事業の全部の譲渡
- (5) 第 23 条第 5 項の規定による役員の実任の免除

（議決権の書面又は代理人による行使）

第 62 条 総代は、第 53 条第 4 項の規定によりあらかじめ通知のあった事項について、書面又は代理人をもって議決権を行うことができる。ただし、組合員でなければ代理人となることができない。

- 2 前項の規定により、議決権を行う者は、出席者とみなす。
- 3 第 1 項の規定により書面をもって議決権を行う者は、第 53 条第 4 項の規定によりあらかじめ通知のあった事項について、その賛否を書面に明示して、第 66 条及び第 19 条第 1 項の規定による規約の定めるところにより、この組合に提出しなければならない。
- 4 代理人は、3 人以上の総代を代理することができない。
- 5 代理人は、代理権を証する書面をこの組合に提出しなければならない。

（組合員の発言権）

第 63 条 組合員は、総代会に出席し、議長の許可を得て発言することができる。ただし、総代の代理人として総代会に出席する場合を除き、議決権を有しない。

(総代会の議事録)

第 64 条 総代会の議事については、法令で定める事項を記載した議事録を作成し、作成した理事及び議長がこれに署名又は記名押印するものとする。

(解散又は合併の議決)

第 65 条 総代会において組合の解散又は合併の議決があったときは、理事は、当該議決の日から 10 日以内に、組合員に当該議決の内容を通知しなければならない。

2 前項の議決があった場合において、組合員が総組合員の 5 分の 1 以上の同意を得て、会議の目的である事項及び招集の理由を記載した書面を理事会に提出して、総会の招集を請求したときは、理事会は、その請求のあった日から 3 週間以内に総会を招集すべきことを決しなければならない。この場合において、書面の提出は、前項の通知に係る事項についての総代会の議決の日から 1 月以内にしなければならない。

3 前項の請求の日から 2 週間以内に理事が正当な理由がないのに総会招集の手続をしないときは、監事は、総会を招集しなければならない。

4 前二項の総会において第 1 項の通知に係る事項を承認しなかった場合には、当該事項についての総代会の議決は、その効力を失う。

(総代会の運営に関する規約)

第 66 条 この定款に定めるもののほか、総代会の運営に関し必要な事項は、総代会運営規約で定める。

第 5 章 事業の執行

(事業の利用)

第 67 条 組合員と同一の世帯に属する者は、この組合の事業の利用については、組合員とみなす。

(事業の種類等)

第 68 条 第 3 条第 1 号に規定する医療に関する事業は、次に掲げるものとする。(第 3 条第 2 号に係るものを除く。)

- (1) 医療事業
- (2) 訪問看護事業

2 第 3 条第 2 号に規定する高齢者、障害者等の福祉に関する事業は、次に掲げるものとする。

- (1) 児童福祉法、身体障害者福祉法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、知的障害者福祉法、老人福祉法、高齢者の医療の確保に関する法律、介護保険法及び障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律のいずれかに基づく保健福祉に関する事業並びにその関連の事業
- (2) 組合員の福祉の増進を図る事業（前号に規定する事業を除く）

3 第 3 条第 3 号に規定する組合員の生活に必要な物資の供給に関する事業は、配置薬事業とする。

4 第 3 条第 4 号に規定する事業は、組合員の自主的な健康管理の用に供する健康器具機材の販売とする。

- 5 第3条第5号に規定する事業は、保健教室、くらしの学校、生協学校、インストラクター養成講座、研修会、広報発行その他知識の向上を図る行事等とする。
- 6 第3条第7号に規定する事業は、前各項に附帯する事業とする。

第6章 会計

(事業年度)

第69条 この組合の事業年度は、毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

(財務の処理)

第70条 この組合は、法令及びこの組合の経理に関する規則の定めるところにより、この組合の財務の処理を行い、決算関係書類及びその附属明細書を作成するものとする。

(収支の明示)

第71条 この組合は、この組合が行う事業の種類ごとに収支を明らかにする。

(医療福祉等事業の区分経理)

第72条 この組合は、次に掲げる事業（以下、医療福祉等事業という。）に係る経理とその他の経理を区分するものとする。

(1) 消費生活協同組合法第50条の3第3項の規定に基づき区分経理しなければならない事業

イ 病院を営む事業

ロ 診療所を営む事業

ハ 介護保険法第41条第1項に規定する指定居宅サービス事業者の指定を受けて実施する事業

ニ 介護保険法に規定する指定を受けて実施する各事業

ホ 児童福祉法、身体障害者福祉法、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律、知的障害者福祉法、老人福祉法、高齢者の医療の確保に関する法律、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律のいずれかに基づく保健福祉に関する事業並びにその関連の事業のうち公費の支出を受けて行う事業

(2) 区分経理に含める事業（(1)を除く）

イ 病院内の売店における供給事業

ロ (1)のハ及びニの事業により提供するサービスと同種のもを、公費の支給対象とならない者に提供する事業

ハ 病院の食堂

ニ 保険薬局以外での医薬品及び医療用具供給事業

ホ 教育事業及び組合員による福祉活動

(法定準備金)

第73条 この組合は、出資総額の2分の1に相当する額に達するまで、毎事業年度の剰余金の10分の1に相当する額以上の金額を法定準備金として積み立てるものとする。ただし、この場合において繰越欠損金があるときは、積み立てるべき準備金の額の計算は、当該事業年度の剰余金からその欠損金のでん補に充てるべき金額を控除した額について行うものとする。

2 前項の規定による法定準備金は、欠損金のでん補に充てる場合を除き、取り崩すことができない。

(教育事業等繰越金)

第 74 条 この組合は、毎事業年度の剰余金の 20 分の 1 に相当する額以上の金額を教育事業等繰越金として翌事業年度に繰り越し、繰り越された事業年度の第 3 条第 5 号に定める事業の費用に充てるために支出するものとする。なお、全部又は一部を、組合員の相互の協力の下に地域において行う福祉の向上に資する活動を助成する事業に充てることができる。

2 前条第 1 項ただし書の規定は、前項の規定による繰越金の額の計算について準用する。

(医療福祉等事業の積立金)

第 75 条 この組合は、医療福祉等事業に関し、残余がある場合については、医療福祉等事業積立金として積み立てるものとする。

2 前項の規定による医療福祉等事業積立金は、医療福祉等事業の費用に充てる場合を除いては、取り崩してはならない。

(その他の剰余金処分)

第 76 条 この組合は毎事業年度の剰余金について、第 73 条第 1 項の規定による法定準備金として積み立てる金額及び第 74 条第 1 項の規定による教育事業等繰越金として繰り越す金額、並びに前条第 1 項の規定による医療福祉等事業の積立金として積み立てる金額を控除したのち、なお残余があるときは、その残余を任意に積み立て、又翌事業年度に繰り越すものとする。

(欠損金のでん補)

第 77 条 この組合は、欠損金が生じたときは、繰越剰余金、前条の規定により積み立てた積立金、法定準備金の順に取り崩してそのでん補に充てるものとする。

(投機取引等の禁止)

第 78 条 この組合は、いかなる名義をもってするを問わず、この組合の資産について投機的運用及び投機取引を行ってはならない。

(組合員に対する情報開示)

第 79 条 この組合は、この組合が定める規則により、組合員に対して事業及び財務の状況に関する情報を開示するものとする。

第 7 章 解散

(解 散)

第 80 条 この組合は、総代会の議決による場合のほか、次の事由によって解散する。

- (1) 目的とする事業の成功の不能
- (2) 合併
- (3) 破産手続き開始の決定
- (4) 行政庁の解散命令

- 2 この組合は、前項の事由によるほか、組合員（第6条第2項の規定による組合員を除く）が、20人未満になったときは、解散する。
- 3 理事は、この組合が解散（破産手続開始の決定がされた場合を除く）したときは、遅滞なく組合員に対してその旨を通知し、かつ、公告しなければならない。

（残余財産の処分）

第81条 この組合が解散（合併または破産手続開始の決定がされた場合を除く）した場合の残余財産（解散のときにおけるこの組合の財産から、その債務を完済したのちにおける残余の財産をいう）は、国又は地方公共団体に帰属するものとする。

第8章 雑則

（公告の方法）

第82条 この組合の公告は、この組合の掲示場に掲示して行う。

- 2 法令により官報に掲載する方法により公告しなければならないものとされている事項に係る公告については、官報に掲載するほか、前項に規定する方法により行うものとする。

（組合の組合員に対する通知及び催告）

第83条 この組合が、組合員に対してする通知及び催告は、組合員名簿に記載し、又は記録したその者の住所に、その者が別に通知または催告を受ける場所又は連絡先をこの組合に通知したときはその場所にあてて行なう。

- 2 この組合は、前項の規定により通知及び催告を行った場合において、通常組合員に到達すべきときに組合員に到達したものとみなす。

（実施規則）

第84条 この定款及び規約に定めるもののほかこの組合の財産及び業務の執行のための手続、その他この組合の財産及び業務の執行について必要な事項は、規則で定める。

附 則

（施行期日）

- 1 この定款は、この組合成立の日から施行する。

（成立当初の役員の任期）

- 2 この組合の成立当初における役員の任期は、第21条第1項の規定にかかわらず、創立総会において議決された期間とする。ただし、その期間は1年をこえてはならない。

（成立後第1期の総代）

- 3 この組合の成立後第1期の総代の定数、選挙区、選挙の方法その他総代の選挙に関し必要な事項は、第44条及び第45条の規定にかかわらず、理事会において定める。

（成立当初の事業年度）

4 この組合の成立の日の属する事業年度は、第 69 条の規定にかかわらず、この組合の成立の日から翌年 3 月 31 日までとする。

(施行期日)

1 この定款は、合併成立の日から実施する。

(合併当初の役員の任期)

2 この組合の合併当初における役員の任期は、第 21 条第 1 項の規定にかかわらず、合併総会において議決された期間とする。ただし、その期間は 1 年をこえてはならない。

附 則

(施行期日)

- 1、この定款は、昭和 55 年 7 月 5 日から実施する。
- 2、この定款は、昭和 61 年 12 月 12 日から実施する。
- 3、この定款は、昭和 63 年 7 月 5 日から実施する。
- 4、この定款は、平成元年 12 月 27 日から実施する。
- 5、この定款は、平成 3 年 10 月 17 日から実施する。
- 6、この定款は、平成 4 年 3 月 27 日から実施する。
- 7、この定款は、平成 4 年 11 月 26 日から実施する。
- 8、この定款は、平成 5 年 7 月 27 日から実施する。
- 9、この定款は、平成 6 年 5 月 17 日から実施する。
- 10、この定款は、1996 年 3 月 15 日から実施する。
- 11、この定款は、1997 年 10 月 31 日から実施する。
- 12、この定款は、1998 年 1 月 13 日から実施する。
- 13、この定款は、1998 年 2 月 23 日から実施する。
- 14、この定款は、1998 年 4 月 14 日から実施する。
- 15、この定款は、1998 年 5 月 8 日から実施する。
- 16、この定款は、1998 年 8 月 21 日から実施する。
- 17、この定款は、1998 年 10 月 1 日から実施する。
- 18、この定款は、1998 年 11 月 2 日から実施する。
- 19、この定款は、1999 年 3 月 24 日から実施する。
- 20、この定款は、1999 年 7 月 1 日から実施する。
- 21、この定款は、2000 年 6 月 29 日から実施する。
- 22、この定款は、2000 年 12 月 8 日から実施する。
- 23、この定款は、2001 年 4 月 16 日から実施する。
- 24、この定款は、2001 年 8 月 17 日から実施する。
- 25、この定款は、2002 年 9 月 9 日から実施する。
- 26、この定款は、2003 年 6 月 11 日から実施する。
- 27、この定款は、2004 年 6 月 8 日から実施する。
- 28、この定款は、2005 年 3 月 7 日から実施する。
- 29、この定款は、2005 年 6 月 7 日から実施する。

30、この定款は、2006年6月8日から実施する。

31、この定款は、2007年3月30日から実施する。

32、この定款は、2008年6月20日から実施する。ただし、第26条第1項は2009年度通常総代会における議決から適用する。

33、この定款は、2013年8月6日から実施する。

34、この定款は、2015年7月29日から実施する。